

4

日本におけるベンチャーキャピタルの変遷と現状及び課題

—特に課題としての非上場株式の時価評価導入について—

PROFILE

白木 信一郎

SHINICHIRO SHIRAKI

あいざわアセットマネジメント株式会社 代表取締役社長
アイザワ証券グループ取締役、日本ベンチャーキャピタル協会理事
三和銀行（現三菱UFJ銀行）においてPEファンド、VC、ヘッジファンド等への投資業務を担当後、マネックス・オルタナティブ・インベストメンツ（株）代表取締役社長CIOとしてファンド・オブ・ファンズ運用等の資産運用業務に携わり、海外、国内の独立系運用会社の調査、ファンド投資実行数ともに多数。ロンドン・ビジネス・スクール金融修士号、慶応義塾大学経済学部卒、日本証券アナリスト協会検定会員。

概要

日本におけるベンチャーキャピタル（以下、VC）は、1963年に中小企業投資育成会社法という特殊法に基づいて設立された、東京、大阪、名古屋を拠点とする3社の政府系法人に端を発すると考えられる。国内で民間のVCとして現存する最古のものは、1973年に野村證券、日本生命、三和銀行（現三菱UFJ銀行）の合弁会社として設立された日本合同ファイナンス株式会社（現ジャフコグループ株式会社）であり、日本経済の行動成長を背景に当時のスタートアップ、中小企業への投融资から高い収益率を上げた。その後、国内金融機関や事業会社がビジネスシナジーを狙って相次いで子会社VCを設立したが、日本におけるバブル崩壊以降の経済成長が停滞する過程ではそれらの子会社VCが良好なパフォーマンスを上げることが難しい状況が続き、国内のVC投資が低迷した。1990年代後半になり、インターネットを活用したスタートアップ企業が成長する過程でVC投資も再び活性化中、独立系VCの設立もみられるようになったが、当時のVCはIT系スタートアップ企業のシード資金を提供するVCが大半であった。その後ITバブルの崩壊を経験し、生き残り、成長を遂げたIT企業や独立系VCが中心となって、現在の国内VCのエコシステムの基盤が形作られた。筆者も理事を務める日本ベンチャーキャピタル協会（以下、JVCA）もこの時期、2002年11月にVC業界における相互連携とベンチャー企業育成の役割を一層強固にするという目的をもって発足した。